※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１０

令和８年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	古典芸能（日本舞踊）	単位数	３単位中の２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本舞踊は江戸時代からの歴史をもち、日本の伝統芸能として育まれ、受け継がれてきた舞踊です。単に踊り方を身につけるだけでなく、日本独特の表現法や日本の伝統文化の精神を身につけ、自ら発信できることを目指してほしい。

2　学習の到達目標

（１）　日本舞踊の基本所作の習得、儀礼作法の習得。日本舞踊の歴史を学ぶ。
（２）　音楽に合わせて基本の踊りを習得しながら、自らそのうちにあるものや気づきなどを表現していく力を養う。
（３）　型を習得する古典芸能毛はありながら、自分を表現するために主体的に考え、質問し、解決できる力を学ぶ。また鑑賞できる力を身につける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な礼儀作法の所作を理解する。小道具（扇など）の各部分の名称や使い方を理解する。基本的な日本舞踊の所作、手の使い方、足の運び方、様々な表現方法を理解する。その表現方法の歴史的意味や特質にも理解を深める。	曲のメロディーやテンポにあわせて、ふりの流れを理解し、表現方法を実践する。曲による所作の違いや、表現方法の違いを理解しつつ、曲にあわせ、スムーズに踊り、自分なりの表現を実現する。	分からないところは積極的に質問し、次の授業までに忘れないようきちんと復習する。自分自身と全体が美しい動きになるよう配慮し、全体で表現力が高まるよう努力している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	古典もの①	「歌舞伎踊り」	a:挨拶の仕方を日本舞踊本来の所作を理解し、身につける。 b:日本舞踊の古典的な振りとリズムを理解し、踊りとして表現する。 c: 分からないところは積極的に質問し、次の授業までに忘れないようきちんと復習する。自分自身と全体が美しい動きになるよう配慮し、全体で表現力が高まるよう努力している。	実技テスト	実技テスト	授業での取り組み
	現代もの①	「盆踊りメドレー」	a:扇の名称や使い方と基本、日本舞踊の様々な所作を理解し、身につける。 b:日本舞踊の所作と振りを理解し、群舞として全体の中での位置や役割を把握しながら踊りとして表現する。 c: 分からないところは積極的に質問し、次の授業までに忘れないようきちんと復習する。自分自身と全体が美しい動きになるよう配慮し、全体で表現力が高まるよう努力している。	実技テスト	実技テスト	授業での取り組み
後期	現代もの②	「おてもやん」 「おさるのかごや」 「コロナ退治」	a:扇の様々な使い方、日本舞踊の様々な所作を理解し、身につける。 b:日本舞踊の所作と振りを理解し、グループで一つの表現として踊りを完成させる。 c: 分からないところは積極的に質問し、次の授業までに忘れないようきちんと復習する。自分自身と全体が美しい動きになるよう配慮し、全体で表現力が高まるよう努力している。	実技テスト	実技テスト	授業での取り組み

※令和４年度以降入学生用

	古典もの②	「京の四季」	a:日本舞踊の歌舞伎とのかかわりや歴史について理解する。日本舞踊の様々な所作を理解し、身につける。 b:日本舞踊の古典的な振りを身につけ、女舞と男舞の違いを意識して曲にあわせて表現する。 c: 分からないところは積極的に質問し、次の授業までに忘れないようきちんと復習する。自分自身と全体が美しい動きになるよう配慮し、全体で表現力が高まるよう努力している。	実技テスト	実技テスト	授業での取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度